

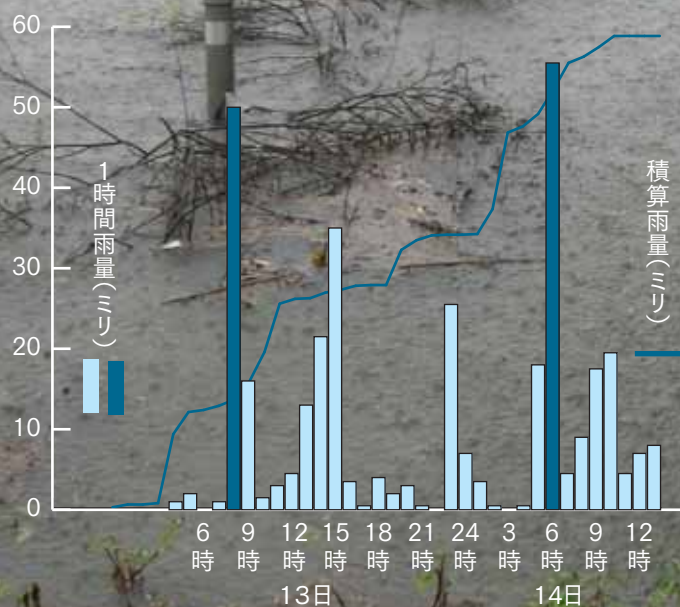
# 九州北部豪雨

あの夏、私たちが経験したものは



平成24年7月11日から14日にかけて、九州北部地方では、「これまでに経験したことのないような大雨」となりました。  
この大雨により柳川市を流れる沖端川と矢部川の堤防が決壊するなど、河川のはん濫などが発生し、九州北部を中心に死者行方不明者を出したほか、住宅損壊、土砂災害、浸水害などの大きな被害を受けました。  
今後想定できないような大雨が起こる可能性があります。  
これまでの経験や教訓を生かし、日頃から防災意識を高めましょう。

大川市(庁舎屋上雨量計)の  
平成24年7月13日から14日にかけての降水量



月日	時刻	経過
7月13日	8時30分	大雨洪水警報発表
7月13日	17時30分	断続的に雨が降る 大野島校区大角地区で建物の浸水被害
7月14日	5時50分	断続的に強い雨が降り続く 大野島校区大角公民館付近浸水
7月14日	8時55分	沖端川の堤防決壊
7月14日	12時00分	三又地区で、道路冠水、クリークからの溢水
7月14日	13時25分	矢部川の堤防決壊
7月14日	16時55分	大雨警報解除
7月14日	18時30分	筑後川の満潮
7月14日	22時00分	冠水箇所が解消に向かう
7月15日	17時20分	洪水警報解除

## 大川市の降雨状況

昨年の7月13日、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、筑後地方では朝から昼過ぎにかけて、非常に激しい雨となり、いったんは弱まりましたが、夜遅くに再び激しい雨となりました。

14日は、未明から昼前に猛烈な雨となり、この2日間以降った雨の量は、大川市(庁舎屋上雨量計)で342.5ミリ、柳川市(福岡管区気象台データ)で313.5ミリとなりました。例年の柳川市の7月平均降水量が338.3ミリですので、ほぼ1か月分の雨が、この2日間で降ったこととなります。

八女市黒木町では53.4・5ミリと1か月分(7月平均降水量378ミリ)の約2倍の雨が降ったこととなります。

1時間降水量で見ると、大川市では7月14日の5時から6時にかけて55.5ミリの雨を記録しています。柳川市では、14日6時48分に最大1時間降水量81.5ミリとい

## 大川市での被害

九州北部豪雨における大川市の被害は、住居の床下浸水が39件、一部破損が3件、倉庫や店舗等の浸水が14件、道路冠水による通行止め箇所が6箇所でした。また、農作物についても、一部の地域で冠水による被害がありました。

### 【被害の原因】

市内でも被害が多かった三又地区の浸水の原因は、山の井川の流域や上流の星野川流域などで、これまで経験したことのない大雨が短時間に降ったことにより、山の井川の許容流量を超えて堤防からあふれて流域外の三又地区まで押し寄せ、さらに大雨により筑後川の水位が高く、三又地区の内水排除ができなかったためと考えられます。

また、他の地区ではクリークや水路の貯留および排水能力を超えた雨が土地の低いところに流れ込んだことや暗渠排水施設が雑物などでふさがって雨水排水ができなかったことなどが原因と考えられます。

7月の観測史上最大を記録しました。

気象庁が作成している「雨の強さと降り方」を見ると55.5ミリ、81.5ミリという雨のすごさが理解できるでしょう。

雨の強さと降り方(気象庁のホームページより)

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ
10以上~20未満	やや強い雨	ザーザーと降る
20以上~30未満	強い雨	どしゃ降り
30以上~50未満	激しい雨	バケツをひっくりかえしたように降る
50以上~80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)
80以上~	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる

## 災害が伝えるもの

気象庁は著しい災害を起こした現象を災害における経験や教訓を後世に伝える目的で命名しており、昨年7月の豪雨を平成24年7月九州北部豪雨と命名しました。

昨年の豪雨は、命名された気象災害としては昭和29年(1954年)「洞爺丸台風」から数えて25例目にあたります。直近の10年間では8例目で、近年、大規模な気象災害が頻発していることがうかがえます。

昨年、気象庁が「これまでに経験したことのないような大雨」という表現で気象情報を発表しましたが、今後も想定できないような大雨が起こる可能性があります。

これまでの経験や教訓を生かし、日頃から防災意識を高めましょう。

